

○佐竹真希子¹⁾、田村八重子¹⁾、佐原彩¹⁾、千田亜沙美¹⁾、
八鍬佳奈江¹⁾、遠藤杏菜¹⁾、菅生尚子¹⁾、深澤昌子¹⁾、

岩薫子¹⁾、木村富貴子¹⁾、阿部香代子¹⁾、船山由美³⁾、植田信策²⁾

1) 石巻赤十字病院検査部 3) 同呼吸器外科 2) 石巻市立病院検査部

【はじめに】

2004年の新潟県中越地震では、深部静脈血栓症（以下 DVT）の陽性率が急性期で35.1%と高率に認められ、それ以降災害後にはエコノミークラス症候群の注意喚起が行われるようになった。2011年3月の東日本大震災で石巻市は津波による甚大な被害を被り、震災当初は約300ヶ所の避難所に47000人もの被災者が押し寄せる事態となった。発災2週間後、避難所でのDVT陽性率は46.2%（ハイリスク群対象）と高値を示し、高頻度にDVTが発生していることが危惧され、当院医師、検査技師を中心としたDVT巡回検診チームを救護班と別に組織し、活動を開始した。

【活動歴】

①2011年3月～8月に石巻赤十字病院多職種DVT巡回検診チームが石巻市、および近隣の避難所で検診を開始した。環境が悪いと推測された避難所を選定し、救護班や避難所を運営する行政職員の協力を得て検診対象者を選別した。②2011年8月以降、検診対象を仮設住宅とし、石巻市役所、健康運動指導士らと協働で「石巻ゆいっこプロジェクト」を発足させた。これはDVT検診と運動指導を同時に行う活動で、検診場所の選定とハイリスク者のピックアップを市役所保健師が行うことで効率よく検診をすすめることができた。③2012年5月以降、被災したが避難所に行かず自宅に留まった居住者を対象に加えた。④また、避難所や仮設住宅を出た生活再建者も参加できるよう、市主催のイベントブースにも参加し検診を

行った。現在は主に学校体育館や公共施設で開催しており、当院だけでなく県内外の医師、看護師、検査技師（近隣病院、宮城県臨床検査技師会でボランティアを募った）らの協力をいただいている。

【検診結果】

①のべ37箇所、742名中血栓陽性198名、DVT陽性率は26.7%。②のべ46カ所、1332名中血栓陽性128名、DVT陽性率は9.6%。③のべ16カ所、1467名中血栓陽性141名、DVT陽性率は9.6%。④3ヶ所、306名中血栓陽性19名、DVT陽性率は6.2%。

【考察】

DVT陽性率は徐々に低下しているが、震災から4年が経過し、生活環境が避難所、仮設住宅、生活再建、と改善されDVT陽性率は低下することが期待されたが今も依然として高値の状態が続いている。

【最後に】

今回のような大規模災害が発生した場合、急性期以降の長期化する避難所生活において、二次健康被害予防のためのDVT検診活動は災害救護への赤十字病院の新たな関わり方を示唆するものと思われた。

連絡先 0225-21-7220

（内線 1190 超音波室）